

原英莉花のハートを射抜いたふたつのATTAS

The ATTAS V2・ATTAS FFアイアン UST Mamiya

毎年、ツアー開幕戦では、ニューギアを投入する選手は多い。ヘッドはニューモデルに替えても、シャフトは手に馴染んだものを選択する選手が多い中、原英莉花は、ヘッドもシャフトもニューギアを投入していた。

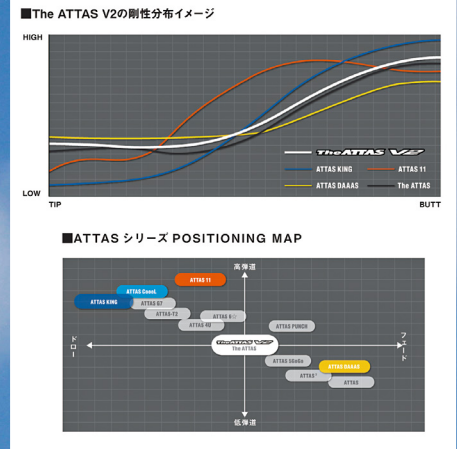
通常は使用するヘッドに合わせてシャフトを選ぶ選手が多い中、「The ATTAS V2」にほれ込んだ原英莉花は、シャフトに合わせてヘッドをチョイス。

シャフト先端部に4軸カーボンと「トレカ M40X」を使用し安定性と高初速を両立。全長にわたり2種類の高弾性シートを使用しロートルク化を図り、キレのある振り心地を実現。



ATTAS FFアイアンは65～95の4種の重量バリエーション。番手ずらしてゴルファーひとりひとりに最適な硬さが得られる「フレックスフリー (FF)」設計が特徴。

セット全体の“振り心地”の統一にこだわり、アイアンシャフトも「ATTAS FFアイアン」をチョイス。ふたつのATTASで2023年開幕戦は自身過去最高順位でフィニッシュ。



ATTAS伝統の素直な振り心地を狙ったニュートラルな剛性分布。弾道の高さも球のつかまりもATTASシリーズの中で真ん中に設計。キャッチコピーは「どまっすぐ」。



やっぱり“タイミングの取りやすさ”がATTASの魅力ですよ

The ATTAS V2は、クセの無い中調子でしなりの量もしなり戻りのスピード感もすべてがニュートラルです。だから、タイミングが取りやすい。その結果ミート率も上がって、方向も安定します。強振しても、ゆっくり振っても挙動が変わらないことも特徴です。使い手も使用するヘッドも選ばないスグレモノです。
ATTAS FFアイアンは、The ATTAS V2同様のタイミングの取りやすさとカーボンらしいしなやかなしなり感を持ちながら、しなり過ぎや頼りなさはないので、違和感なくスチールからカーボンに移行できるシャフトです。

アイアンのシャフトを替えるという事は、プロゴルファーにとってかなりハードルが高いのでは？と思われるが、特に原英莉花は、セット内の振り心地の統一に強いこだわりを持っているという。同じATTASブランドだから同じファイリングで振れる。さらに、「フリーフレックス設計」で好きな硬さに仕上げられることも彼女の好みにぴったりだったということだ。

ドライバのシャフトと同時に、アイアンのシャフトもATTASブランドにスイッチしている。選んだのは「ATTAS FFアイアン 85」。スコアを大きく左右する

シャフトもヘッドも最新作
23 国内女子開幕戦ダイキンオーキッドレディスで原英莉花が手にしていたドライバーは、コブラ・キング GLTDxLS、シャフトは The ATTAS V2 (5S)、シャフトもヘッドも昨年とは替えていた。
そして、先般の米女子ツアーロッテ選手権では、シャフトはそのまま、ヘッドはコブラの2023モデルエアロジェットLSに替えていた。どちらもロースピンタイプモデルだが、まだ開幕時期ということもあり、複数のヘッドをテストしながら、今年のシーズンを戦うために調整を続けていることがうかがえる。
そんな中でも、シャフトは The ATTAS V2 (5S) に全幅の信頼を置いており、一貫してシャフトは替えない。あくまでもこのシャフトであり、それに合わせてヘッドを選択しているのである。
ダイキンオーキッドレディスでの取材時点では、彼女は The ATTAS V2 の振り心地にほれ込んで早速今季使用するシャフトとして決定。ほぼ同時にコブラのヘッドを使用することも決めていたが、2022モデルと2023モデルを同じシャフトで打ち比べ、当初前者を使用していたが、現在では2023モデルのエアロジェットLSを使用している。
ドライバのシャフトと同時に、アイアンのシャフトもATTASブランドにスイッチしている。選んだのは「ATTAS FFアイアン 85」。スコアを大きく左右する